

国語 解答・解説 第三回

正解と解説を確認してください

本演習は大学入学共通テストの過去問をもとに作成した類題です。問題文の量は過去問の約2分の1です。

第一問 対話文（図書室利用促進）

問一 正解：①

資料より「本の種類が少ない」が42%で第一位です。

問二 正解：①

三年前1200冊・昨年550冊。 $550 \div 1200 \approx 0.46$ で約四割六分。最も近い選択肢は「約四割」です。

問三 正解：①

岡本さんは「貸出冊数の推移を見ると三年前と比べて半分以下」と資料を根拠に述べています。

問四 正解：②

井上会長は「本の配置を見直すのはすぐできる」と発言。照明改善は「予算がかかる」で即時対応ではありません。

問五 正解：③

前田さんは読書週間に合わせたポスター宣伝を提案しています。

問六 正解：①

井上会長の最後の発言「本の配置見直しと整理→ポスター作成→照明改善の予算申請」の順です。

第二問 現代文（こころ）

問一 正解：②

書生とは勉強中の若い学生を指す語です。

問二 正解：①

「先生の眼の中に孤独な光のようなものが宿っている」という描写から、孤独を好み人を遠ざける性質が読み取れます。

問三 正解：③

「光のようなもの」は比喻。先生の内面に深い孤独と複雑さを感じられるという意味です。

問四 正解：①

直前の文「先生の眼の中に孤独な光のようなものが宿っているのを私は感じた」を受けています。

第三問 古文（徒然草 第五十二段）

問一 正解：②

「心うし」は残念だ・情けないという意味の形容詞。石清水に参拝できていないことを残念に思っていたと読み取れます。

問二 正解：①

「かばかり」はこれだけ・この程度。麓の社だけ拜んで全部だと思い込んで帰ったという意味です。

問三 正解：③

「神へ参るこそ本意なれと思ひて、山まではみず」と法師自身が語っています。

問四 正解：①

兼好法師は「案内役なしに重要なことを行うと思わぬ失敗をする」という教訓を伝えています。

【全文現代語訳】 徒然草 第五十二段

【現代語訳】 仁和寺にいるある法師が、年をとるまで石清水八幡宮に参拝しなかつたので、残念に思つて、ある時思い立つて、ただ一人、徒歩で参詣した。（麓の）極楽寺・高良などを拜んで、これだけだと思い込んで帰つてしまつた。そして、仲間の人に会つて、「長年思つてきたことを果たしました」と言つたので、「どのようなことがございましたか」と問うと、「神にお参りするのが本来の目的だと思つて、山までは見ませんでした」と言つたのだつた。

第四問 漢文（史記 淮陰侯列伝）

問一 正解：②

「従ひ人に」は「人のところに行って」、「寄食」は「食事を恵んでもらう」という意味です。

問二 正解：③

「人は多く之を厭ひ」の「之」は直前の文脈で食事を恵んでもらいに来る韓信を指しています。

問三 正解：①

「貧しくして行ひなく」「人多く之を厭ひ」という二つの描写から、貧困と周囲からの嫌悪という境遇が読み取れます。

【書き下し文と現代語訳】 史記 淮陰侯列伝

【書き下し文】韓信の始め布衣たりし時、貧しくして行ひなく、推折せられて吏と為るを得ず。又た治生商賈を能くせず。常に人に従ひて寄食し、人多く之を厭ふ。

【現代語訳】韓信がはじめ平民であったころ、貧しくて品行もよくなく、（人に）推薦・選抜されて役人になることができなかった。また、商売をすることもできなかった。いつも人のところに行って食事を恵んでもらい、人々の多くはこの（韓信の）ことを嫌っていた。

漢字問題

問一 正解：①

「洞察」はどうかさつ。物事の本質を見抜くこと。

問二 正解：①

「未解決」はみかいつ。「未」はまだ～ないの意。

問三 正解：①

「壮大」はそうだい。雄大でスケールが大きい様子。

問四 正解：①

「含蓄」はがんちく。深い意味や内容を持つこと。

問五 正解：①

「辛抱」はしんぼう。我慢すること・耐えること。

問六 正解：②

「周知」は広く知れ渡っていること。①「衆知」はみんなの知恵で文脈が異なります。

問七 正解：①

「変化」は様子が変わること。

問八 正解：①

「優秀」は他より優れていること。

問九 正解：①

「団結」は同じ目的のためにまとまること。

問十 正解：①

「感動」は深く心を動かされること。